

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	デザイン概論	
科目基礎情報					
開設学科	グラフィックデザイン科	コース名		開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位	授業形態	講義		
教科書/教材	レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	角田 知義		実務経験の有無・職種	有・クリエイティブディレクター	
学習目的					
デザインの勉強を始める学生を対象とし、「基本的なデザイン用語の理解」、「隣接学問領域との差異からデザイン領域特性の理解」、更に「デザインの歴史的変遷」、社会の変化、技術の変化に伴う「デザインの役割、技法の変化を考察」をすることで、21世紀の現代でデザインを考える上で必要となる基礎的な知識、思考方法を身につける事を目的とする。					
到達目標					
デザイナーとしてのアイデンティティを培う基礎として、「デザインの概念」「デザインという行為」「デザイン物と社会」という三つ視点を持ち、それぞれの理解と活用の知識が必要となる。これらの視点と知識を持つことの重要性の理解と共に、具体的にはデザインを行う上で必須となる「デザイン言語」「観察・分析・整理力」、「発想方法」、「表現技術、設計力」、「思想、社会」についての幅広い知識を習得できる基礎力の向上と獲得を目標とする。					
教育方法等					
授業概要	デザインは“考え方（観察・分析、思考）”と“行為（デザインング、表現技術）”と“成果（デザインされたモノ、コト）”の三つのレベルで語ることが出来る。本授業では、デザインの歴史、今までにデザインされたモノを参照しつつ、これらの三つのレベルで考えることにより、多様化、変化し続ける21世紀のデザインのあり方、課題、役割、展開についての理解を深める。				
注意点	デザインについての基礎的な知識を形成する授業であるので情報量は多くなる。情報収集・整理というでも観点でも授業に集中してノートをとることが必要。各自の理解度の確認、講義内容に対しての質疑応答のため、毎時間「授業の振り返りシート」を記入、授業時間終了時に提出する。 ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は評価を受けることができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	最終レポート	55%	学期末のレポート、課題を総合的に評価		
	中間レポート	20%	授業期間中、デザイン概念の理解促進のための宿題形式のレポート（2回）		
	振り返りシート	15%	毎時間、受講した授業内容を振り返りまとめ、時間終了時に必ず提出		
	受講態度	10%	出席状況、遅刻の有無、受講態度を評価		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	デザインの基本①		ガイダンス、“デザインの今を考える”デザインを取り巻く環境と学び方を考えることができる		
2回	デザインの基本②		”構成のちから” 構成と設計、モノづくりの原点を理解する		
3回	デザインの基本③		”編集のちから” アートとデザインの違いを理解する		
4回	デザインの基本④		”アイデアのちから(1)” アイデアを生み出す基礎、観察と整理をし理解する		
5回	デザインの基本⑤		”アイデアのちから(2)” 発想法、展開法、具現化、計画、設計を考え理解する		
6回	デザインの近現代史①		産業革命とアーツ・アンド・クラフツ運動、万国博覧会の意義を理解する		
7回	デザインの近現代史②		20世紀「デザインの時代」の源泉、バウハウス以前の時代背景を理解する		
8回	デザインの近現代史③		バウハウスの意味、バウハウスの人々とその時代背景を理解する		
9回	デザインの近現代史④		第二次世界大戦後、経済成長期の日本のデザインを中心にその発展を理解する		
10回	デザインの近現代史⑤		20世紀から21世紀への変遷、アナログからデジタル、ネット化の時代変化の中で変化を理解する		
11回	デザインの捉え方、考え方①		”現代社会におけるデザイン”デザインと産業と社会と人の関わりを理解する		
12回	デザインの捉え方、考え方②		デザインで解決出来るコトとは”地球資源、地球環境、弱者へのデザインを理解する		
13回	デザインの捉え方、考え方③		”多様な問題解決の手段としてのデザイン”のあり方を理解する		
14回	デザインの捉え方、考え方④		デザイン思考とコミュニケーション・デザインそしてイノベーションを理解する		
15回	デザインの捉え方、考え方⑤		”Cool Japan と デザイン” グローバルなデザインとローカルなデザインについて理解する		